

# 会報

## ○第六四回学術大会

九月九日～十一日の三日間、関西大学において以下の日程で開催され、四七七名の参加者があった。

・九月九日(金)

学会賞選考委員会

一一時三〇分～一三時

各種委員会

一三時～一四時三〇分

開会式

一四時三〇分～一四時四〇分

公開シンポジウム

一四時四〇分～一七時四〇分

理事会

一八時～二〇時三〇分

IAHR残務委員会

二〇時三〇分～二一時

・九月一〇日(土)

研究発表

九時～一二時三〇分

評議員会

一二時三〇分～一四時

『宗教研究』編集委員会

一二時三〇分～一四時

研究発表

一四時～一六時

会員総会

一六時二〇分～一七時四〇分

懇親会

一八時～二〇時

・九月十一日(日)

研究発表

九時～一二時三〇分

IAHR第一九回世界大会実行委員会

一二時三〇分～一四時

プログラム委員会

一四時～一五時三〇分

研究発表

一四時～一六時

閉会式

## ○日本宗教学会賞選考委員会

日時 二〇〇五年九月九日(金) 一一時三〇分～一三時

場所 関西大学 第三学舎 三四〇一教室

出席者 石井研士(長)、澤井義次、塩尻和子、末本文美士、

鈴木正崇、月本昭男、長谷部八朗

議事

一、審査の結果、徳田幸雄氏の以下の業績を推薦することを決定した。推薦理由は以下の通りである。

二〇〇五年度学会賞選考委員会報告

徳田幸雄氏(東北大学非常勤講師)の研究業績について

審査対象『宗教学的回心研究——新島襄・清沢満之・内村鑑

三・高山樗牛』(未來社、二〇〇五年二月刊)

本書は、宗教学の立場から宗教的回心の研究を試みた著作である。

本書は、第一部の理論研究と第二部の事例研究から成り、第一部と第二部が相互補完的に作用するよう構成されている。

第一部では、内外の主要な回心研究を広く渉獵したうえで、

従来の回心研究では、ほとんど議論されることのなかった回心の宗教的側面、すなわち、回心の本質的側面を浮き彫りにしようとする、いわゆる「宗教学」の視点が提示されている。

著者は研究の焦点を、回心の「過程」から「構造」へと移

し、回心による変化の内容や固有の性質としての「本質」の理解へと進めている。著者は、最終的には「宗教的回心」を明らかにするために、垂直的・科学的・道徳的の三次元による「宗教学」の場を構築しようとしている。

著者によれば、回心とは質的な断絶の飛躍を伴うような人間存在の根本的な転換に他ならない。そうした転換は「非合理的な受動性」ともいうべき「宗教性」によって、もつとも際立たせられると強調する。こうした考察を踏まえて、キリスト教的な conversion と仏教的な「廻心」に共通する転換構造が認識され、普遍的な回心研究が成り立つ「宗教学」の場が提示されるのである。

第二部では、第一部で提示された理論的枠組みを、近代日本における四人の知識人（新島襄、清沢満之、内村鑑三、高山樗牛）に適用し、それぞれの回心を具体的なデータにもとづいて把握しようとしている。キリスト教（新島襄、内村鑑三）と仏教（清沢満之、高山樗牛）という宗教の違いを越えた、普遍的な回心の構造を明らかにしようとする。その意味では、第二部は第一部の理論的枠組みの実証という意味をもつが、それはまた同時に、著者の「宗教学」の枠組みに沿った人間理解をめざす試みということもできる。

研究方法としては、文献資料を批判的に読み解く「解釈学」（デイルタイ）という古典的な手法が用いられている。回心という多様な現象を「垂直軸」の概念によって立体的に把握しようとするなど、「人間存在の転換」としての宗教的回心の特質を浮かび上がらせて、独自の回心研究を構築しようとする試み

は十分に評価することができる。

学説の概観・整理から、仮説の提示、今後の研究の可能性へと展開する著者の議論はきわめて周到かつ明解である。また、回心を一種の「絶対者への自己の明け渡し」として理解したうえで、その事例を著作や手記資料に基づいて丹念に扱う手法も高く評価される。

しかしながら同時に、西欧的な理論的枠組みとの関係が必ずしも必然的に結びついていいるとはいえない点もみられる。明治という時代背景や社会的文脈の中で構築された「宗教的回心」研究という個性が、西欧的な理論的枠組みという普遍性といかに結びつくのかについても、より掘り下げた議論が必要となるであろう。

また、近代日本の知識人の中から、なぜ四人の知識人が取り上げられたのか、その理論的根拠についても、ほとんど議論が行われていない。この論点を近代日本という時代背景に位置づけて議論すれば、この著書で取り上げられた知識人の「宗教的回心」の過程と構造がいつそう明確になったと考えられる。

さらに、著者が参照した著作は多く英語文献に限られ、ドイツ語やフランス語の文献を十分に参照していない点に不満が残る。さらに今日、「宗教学」という学問的アイデンティティが大きく問われている中で、著者のいう「宗教学」の概念的論述にはいまだ説得力を欠く部分も多い。それだけに、著者には今後、幅広く世界的な研究成果を取り込んで、その概念的枠組みの洗練化を期待したい。

以上、述べたように、本書はいまだ大きな研究課題を抱えて

はいるが、回心研究の分野に新たな地平を拓いたことを評価し、二〇〇五年度の日本宗教学会賞にふさわしい研究業績として推薦する。

### ○庶務委員会

日時 二〇〇五年九月九日(金)一三時～一四時三〇分

場所 関西大学 第三学舎 三三〇一教室

出席者 櫻井治男、鈴木岩弓、田島照久(長)、星野英紀、山中弘

### 議事

#### 一、改革諸案についての検討

評議員会は、具体的な問題点を議論する場とする。

#### 二、学術大会に関する諸問題の確認と検討

①特別テーマ部会と個人発表への申込は、次年度以降も、申込締切時点で、発表資格を有する会員とする。

#### ②大会参加規定について

- ・発言権は、発表資格を有する会員(名誉・維持・普通会员)のみに認める。

- ・次年度以降、自由テーマパネルに参加することになった非会員については、参加する自由テーマパネル以外での発言を認めない。参加費、懇親会費は会員と同額とする。

#### 三、『宗教研究』データベースについて

情報化委員会より以下の報告があり、了承した。税法上の問題や検索精度の点から販売が困難であるため、暫定的措置として、DVDの形で、会員限定で先着順に無料配布すること

を検討している。DVDの作成等にかかる費用を概算した結果、今年度の予算の内、三〇万円をこの費用にあてると六〇〇名への配布が可能である。取得方法の告知は、『宗教研究』や学会ホームページで行う予定である。

### ○国際委員会

日時 二〇〇五年九月九日(金)一三時～一四時一〇分

場所 関西大学 第三学舎 三三〇二教室

出席者 池澤優、市川裕、小田淑子(長)、澤井義次、嶋田義仁、渡辺学

### 議事

#### 一、外国人研究者(非会員)の自由テーマパネル参加について

次年度大会から、パネル代表者の責任において、非会員の外国人研究者を一名に限りパネルに加えることができるが、日本に留学中の外国人大学院生(非会員)のパネル参加については、今後の検討を要する。外国語でパネルを行うことについては、参加者に理解できるように通訳や日本語要旨などの配慮や手当てが条件となるが、前向きに検討していく。これらは本学会の一層の国際化を促進することを目的としており、その他の可能な方法も検討する方針である。

#### 二、第二八回 ISSR/SISR (国際宗教社会学会) ザグレブ大会について

田島忠篤委員より書面にて報告があった。七月一八日～二二日にザグレブ大学において開催された。テーマは「宗教と社会——様々な境界への挑戦 (Religion and Society: Chal-

lenging Boundaries)」。全参加者二八二名の内、日本人参加者は田島委員と、中野毅、嶋田義仁、弓山達也、奥山倫明、樫尾直樹、佐々充昭、藤野陽平、立田由紀恵の八氏。今回の大会は二〇〇七年八月初旬にドイツ・ライプツィヒ大学で開催されるが、詳細は来年二月の同学会理事会で決定する。

### ○情報化委員会

日時 二〇〇五年九月九日(金)一三時～一四時三〇分  
場所 関西大学 第三学舎 三三〇三教室  
出席者 石井研士、櫻井義秀、中村生雄(長)、吉永進一  
議 事

#### 一、『宗教研究』データベースについて

作製した画像データ、書誌データの双方をDVDに収録し、会員のうちの希望者に無料で配布する方針を確認した。

#### 二、ホームページについて

ホームページの充実をはかるために、学会で独自のサーバーを持つことについて検討した。

### ○理事会

日時 二〇〇五年九月九日(金)一八時～二〇時三〇分  
場所 関西大学 第三学舎 第二会議室  
出席者 芦名定道、安蘇谷正彦、安達義弘、池上良正、池澤優、石井研士、市川裕、井上順孝、宇都宮輝夫、大越愛子、大村英昭、小田淑子、加藤智見、金井新二、鎌田繁、河東仁、川村邦光、氣多雅子、小坂国

継、櫻井治男、佐藤憲昭、澤井義次、島岩、島蘭進、下田正弘、白山芳太郎、末木文美士、鈴木岩弓、鈴木正崇、ポール・スワンソン、蘭田坦、高田信良、高橋渉、田島照久、対馬路人、津城寛文、土屋博、鶴岡賀雄、中野毅、中村生雄、中村廣治郎、西山茂、長谷正當、長谷部八朗、花岡永子、華園聰麿、林淳、藤田正勝、星川啓慈、星野英紀、細谷昌志、松村一男、三友健容、宮崎賢太郎、山中弘、渡辺学、(オブザーバー) 宮家準

### 議 事

#### 一、会計報告

鈴木庶務委員より、二〇〇四年度の決算報告と二〇〇五年度の予算案が提出され、承認された。(別記参照)

#### 二、IAHR第一九回世界大会終了後の経過報告

・島蘭実行委員長より、九月二七日の日本学術会議内の組織委員会において同大会実施に関わる活動は終了となる旨、報告された。鶴岡プログラム委員より大会の参加者関連データ、池澤財務委員より同大会の収入、支出が報告された。

#### ・IAHR残務委員会について

島蘭会長より、上記の会計報告にある未使用分を募金者への報告書の作成と発送、大会記録の作成等の残務処理費として使用するにあたり、残務委員会を発足したことが報告され、承認された。委員は、池澤優、市川裕、宇都宮輝夫、氣多雅子、島蘭進、月本昭男、鶴岡賀雄、星野英紀、山中弘、渡辺学の一〇氏。

### 三、日本宗教学会賞

石井選考委員長より審査結果の報告があり、報告通りに決定した。

### 四、会長選挙について

佐藤選挙管理委員長より選挙の結果、星野英紀常務理事が会長に決定したことが報告された。

### 五、諸委員会からの報告と提案

#### (1) 庶務委員会（田島委員長）

準会員（購読会員）は入会に際して審査を行っていないので、今後も学術大会での発表や発言を認めないことを確認した。

#### (2) 国際委員会（小田委員長）

・自由テーマパネルへの外国人（非会員）研究者の参加は、代表者が責任をもって加えるのであれば申込は可能である。

・七月に開催された第二八回 ISSR / SISR クロアチア・ザグレブ大会について報告があった。

#### (3) 情報化委員会（中村情報委員長）

『宗教研究』の画像・書誌データを DVD として希望する会員に配布することを検討している。将来的には自由に閲覧、検索できるよう学会独自のサーバーの設置が必要になる。

#### (4) 編集委員会（松村委員長）

引き続き、多くの論文投稿があることを希望している。

#### (5) 編集委員の交代

任期終了の関一敏氏に代わって、樫尾直樹氏に委員を委嘱したことが島蘭会長より報告され、承認された。

#### (6) プログラム委員会（櫻井委員長）

今年度より導入した自由テーマパネル、特別テーマ部会に關して、課題や意見があれば教示願いたい。

### 六、日本学術会議の新体制について

宮家準日本学術会議会員より、新体制発足までの経緯と変更点が説明された。今後、宗教学関連の学術研究団体の連合体の形成に向けて対応すべきであるとの提案があり、了承された。

### 七、次年度の学術大会について

東北大学において、二〇〇六年九月一六日（土）～一八日（月）に開催予定であることが、同大学の鈴木岩弓常務理事より報告された。

### 八、新入会員

別記一四名が承認された。

### 九、名誉会員

本年度は、井門富二夫氏、久我光雲氏に名誉会員になっていただくことが決定された。

### 一〇、委員会の新委員について

星野次期会長より、二〇〇六年度のプログラム委員を、鈴木岩弓氏（開催校）、ポール・スワンソン氏、鶴岡賀雄氏、林淳氏、会長とする旨発表され、了承された。なお、従来、委員は四月の理事会で承認されていたが、他の委員会についても、秋に常務理事会を開き、早めに新委員を決定したいとの説明があった。

報 会

一一、その他

会長選挙の際の情報のあり方について問題提起がなされ、常務理事会で検討することとなった。

○IAHR残務委員会

日 時 二〇〇五年九月九日(金)二〇時三〇分〜二二時

場 所 関西大学 第三学舎 第二会議室

出席者 池澤優、市川裕、宇都宮輝夫、氣多雅子、島蘭進、  
鶴岡賀雄、星野英紀、山中弘、渡辺学

議 事

一、委員長の選任

委員長に、島蘭委員が選任された。

二、残務処理について

鶴岡委員、市川委員、池澤委員より、書物の刊行など予定されている残務について説明があり、具体的に検討していくことになった。

○評議員会

日 時 二〇〇五年九月一〇日(土)一二時三〇分〜一四時

場 所 関西大学 第三学舎 五一一教室

出席者 八六名

議 事

一、諸報告

・会計報告

・日本宗教学会賞

・会長選挙の結果

・次年度の学術大会

二、自由テーマパネル、特別テーマ部会導入に伴う課題について討議し、以下のような問題が論じられた。

・学会が主導する特別テーマパネルは、プログラム委員が責任者となり、司会を行うのが良いのではないか。

・個人発表とパネルを同じ時間帯に行わずに分けた方がよいのかどうか。パネルに二種類の時間枠があるが、区別が必要かどうか。

・メーリングリストを作って、パネル作りをするシステムが出来ないか。

・公開シンポジウムと特別テーマパネルとの連携がうまく行っていない。

・どの部会で発表することになるか、発表者側の希望を考慮できないか。

三、星野次期会長より、二〇〇六年度のプログラム委員が発表された。

○『宗教研究』編集委員会

日 時 二〇〇五年九月一〇日(土)一二時三〇分〜一四時

場 所 関西大学 第三学舎 三四〇一教室

出席者 樫尾直樹、河東仁、小池淳一、白川琢磨、ポール・スワンソン、土井健司、長谷部八朗、藤原聖子、松村一男(長)、山中弘

## 議 事

- ・三四八号（来年六月発行）以降の書評本および評者候補を選定した。
- ・大会プログラムでは部会の中でパネルと個人発表が混在しているが、大会紀要号は発表の分類別に掲載する。

## ○総会

日 時 二〇〇五年九月一〇日（土）一六時二〇分～一七時四〇分

場 所 関西大学 第三学舎 四三〇二教室

出席者 大会参加会員数三三四名、定足数一二二名、出席者数（委任状提出者を含む）三二六名、よって総会は成立した。

## 議 事

- 一、開会
- 二、議長に小田淑子氏を選出
- 三、日本宗教学会賞について
- 四、会計報告
- 五、諸委員会報告
  - ・庶務委員会
 

自由テーマパネル、特別テーマ部会の概要についての報告の後、パネルと個人発表が並行して行われている点、パネル運営等について質問と提言があり、今後の大会運営に反映させていくとの回答があった。

・国際委員会

## ・情報化委員会

・編集委員会

・編集委員の交代

・プログラム委員会

六、IAHR第一九回世界大会終了後の経過報告

七、日本学術会議関連事項

八、会長選挙の結果について、新会長の挨拶

九、次年度学術大会について

一〇、名誉会員について

一一、島蘭現会長の挨拶、任期終了の委員についての報告

一二、閉会

## ○IAHR第一九回世界大会実行委員会

日 時 二〇〇五年九月一日（日）一二時三〇分～一四時

場 所 関西大学 第三学舎 五二一教室

出席者 池澤優、市川裕、宇都宮輝夫、小田淑子、樫尾直樹、木村武史、氣多雅子、櫻井義秀、澤井義次、島蘭進、嶋田義仁、鈴木岩弓、ポール・スワンソン、高田信良、田島照久、月本昭男、津城寛文、土屋博、鶴岡賀雄、中野毅、中牧弘允、長谷部八朗、林淳、藤原聖子、星野英紀、堀池信夫、松村一男、村上興匡、山中弘、渡辺学

配付資料 大会報告書（抜粋）、会計報告書

## 報 告 会

## 議 事

## 一、大会の報告・概要

## ①大会報告書の概要（池澤財務委員）

大会報告書の構成内容や配布先についての説明が行われた。

## ②参加者数、参加国数および発表数（鶴岡プログラム委員）

・本大会の登録参加者数、参加国数、発表数などについての報告が行われた。

・登録参加者数は、国内一〇九二名、国外六〇八名、合計一七〇〇名に達し、その他同伴者としての登録参加者数が、国内二七名、国外七二名、合計九九名となっている（総計一七九九名）。なおこれ以外に、一日券参加者、パネルアシスタント、寄付アトラクション関係のゲスト、書籍展示関係者、公開シンポジウム聴講者、スタッフ、報道機関など合計七〇九名が会場を訪れた。

・参加国数は、六ヶ国、二地域。

・パネル（シンポジウム・ラウンドテーブルを含む）総数は三三一。そのうちオーガナイズド・パネルは二九二。シンポジウムが三二。ラウンドテーブルが七。

・総発表件数は一二八四件。登壇者数（パネル発表者・司会・レスポデント・コンヴィナー・オブザーバーを含む。但し、公開シンポジウム、プレナリー・セッション、イブニング・セッションは含まない）は、延べ一二三九人、実数は一二七七人。

・実際の発表に即したプログラムの最終形態が、九月上旬に大会ホームページに掲載された。

## 二、大会後の経過と今後の予定（島蘭実行委員長）

## ①今後の予定

・九月二七日の日本学術会議内の組織委員会までの予定が報告された。

・IAHR第一九回世界大会実行委員会は九月一日をもって解散する。

## ②IAHR残務委員会の設置

募金者への礼状と報告書の送付や、大会記録の編集、書物の刊行などを行うためのIAHR残務委員会を設置することが承認された。当委員会は日本宗教学会に属することとなる。

## 三、会計報告（池澤財務委員）

大会の全収入と支出の総額、ならびに各項目の詳細について報告が行われた。

## 四、大会のまとめについて

## ①記録（市川総務委員）

大会の報告と写真を、大会ホームページにて掲載予定。

## ②出版

・IAHR本部の企画として、プレナリー・セッションの内容をまとめた書籍が出版される予定（鶴岡プログラム委員）。

・この書籍の日本語訳の出版可能性については、IAHR残務委員会で今後検討する（島蘭実行委員長）。



## ○プログラム委員会

日時 二〇〇五年九月一日(日)一四時～一五時三〇分  
場所 関西大学 第三学舎 三四〇三教室

出席者 二〇〇五年度委員―小田淑子、櫻井治男、島蘭進、

田島照久、二〇〇六年度委員―鈴木岩弓、ポール・

スワンソン、鶴岡賀雄、星野英紀

## 議事

一、本年度と次年度の委員で引き継ぎを行った。今回の大会でのアンケートや評議員会、総会で提示された意見を踏まえ、課題点について新委員会で検討することとなった。

## ○常務理事会

日時 二〇〇五年一〇月二十九日(土)一三時三〇分～一五時

場所 大正大学 一号館 会議室二

出席者 小田淑子、金井新二、氣多雅子、佐藤憲昭、澤井義

次、島蘭進、ポール・スワンソン、土屋博、中村廣

治郎、星野英紀、山中弘

## 議事

一、各種委員会の新委員について

以下の各氏に、庶務、国際、情報化委員会の委員を委嘱したことが星野会長より報告され、承認された。同日より新委員による庶務、国際、情報化委員会が発足した。

## ・庶務委員会

池上良正、岩田文昭、櫻井治男(委員長)、ポール・スワンソン、関一敏、鶴岡賀雄、林淳、藤田正勝、山中弘、渡辺和子

## ・国際委員会

池澤優(委員長)、奥山倫明、川橋範子、澤井義次、嶋田義仁、田島忠篤、月本昭男、深澤英隆、マーク・マリンス、吉原和男、渡辺学

## ・情報化委員会

石井研士、小川順敬、櫻井義秀、中野毅(委員長)、ジェームズ・ハイジック、養輪顕量、弓山達也、吉永進一

## 二、日本学術会議の経過報告

九月二七日に行われた第一九期宗教学研究連絡委員会において協議された「宗教学研究廃止後における宗教学研究関連学術研究団体連合体の立ち上げ」に関して、星野会長より以下の報告があり、今後、日本宗教学研究諸学会連合の活動等について検討していくことになった。

・宗教学研究廃止後、「日本宗教学研究諸学会連合」を創設することが承認され、その準備委員会を発足させることが決定した。準備委員会委員は、さしあたり日本学術会議会員(宗教学分野)、前・現日本宗教学会会長、第一九期宗教学研究連合員とすることとし、事務局は日本宗教学会事務局、準備委員長は星野英紀日本宗教学会会長に依頼する。八学会から二万円ずつ拠出し、当面の事務費用にあてることにする。準備委員会は、第二〇期日本学術会議連合会員の決定後に、宗教学研究にかかわる連合会員をも含めて開催し、あらためて日本宗教学研究諸学会連合を正式に発足させる。

・今回の宗教学研究連の議事要旨を、関連七学会(キリスト教史学会、神道史学会、神道宗教学会、日本印度学仏教学会、日

会 報

本基督教学会、日本道教学会、日本仏教学会)の代表者に郵送した。

三、今後の会合予定について

プログラム委員会は年末、常務理事会は二〇〇六年一月または二月に開催予定である。現時点で開催日が決定している会合(二〇〇六年)は以下の通り。

- ・三月一八日(土) 編集委員会
- ・四月 一日(土) 理事会、各種委員会
- ・七月 一日(土) 理事会、各種委員会、学会賞選考委員会
- ・九月一六日(土)～一八日(月) 第六五回学術大会

## 『宗教研究』デジタル・データ配布に関する案内

情報化委員会

このたび『宗教研究』全論文の画像データと、それらの書誌データを検索可能なプログラム・ファイル化したものを、一枚のDVDに収録しました。このDVDを、希望する会員に、無料配布いたします。但し、配布可能なDVDに枚数制限があるため(六〇〇枚)、希望者の先着順に配布します。

画像データには創刊号から三三九号までのすべての論文が画像としてPDFファイルで、書誌データには掲載された論文、講演、展望、書評などの書誌に関するデータが「エクセル」および「一太郎」のファイル形式で、保存されています。

本データは、複製を妨げるものではありません。なお、本件については学会ホームページ(www.soc.nii.ac.jp/jars/)にも掲載してあります。

## ・申込方法

件名は「宗教研究DVD希望」とし、氏名と住所をご記入の上、学会事務局にお申込下さい。

電子メール ja-religion@mub.biglobe.ne.jp

FAX 〇三―五六八四―五四七四

## ・受付期間

二〇〇五年一月から二〇〇六年一月末日まで。

申込が準備数に達した時点で、締め切らせていただきます。

## ・配布時期

二〇〇六年二月より順次発送いたします。

## 執筆者紹介(執筆順)

落合 仁司	同志社大学教授
森本あんり	国際基督教大学教授
住家 正芳	工学院大学非常勤講師
佐藤慎太郎	東北大学大学院
青柳かおる	横浜市立大学非常勤講師
林 香奈	東洋大学大学院
井田 克征	日本学術振興会特別研究員
鶴岡 賀雄	東京大学教授
島蘭 進	東京大学教授
古澤 有峰	東京大学大学院
保呂 篤彦	筑波大学助教授
近藤 剛	神戸国際大学非常勤講師
星川 啓慈	大正大学教授
大熊 玄	西田幾多郎記念哲学館専門員
長澤 壮平	筑波大学大学院
小池 淳一	国立歴史民俗博物館助教授
真野 俊和	筑波大学教授
島田 裕巳	東京大学先端科学技術研究センター特任研究員

## 会 報

## 2004 年度 日本宗教学会 決算報告

## &lt;収入&gt;

会費	16,741,650
賛助会費	840,000
会誌売上金	40,500
第 63 回大会参加費	301,600
出版助成金	1,700,000
岸本・諸戸・石津・堀・増谷・ 柳川・玉城 基金利子	148
預金利子	65
著作権使用料	125,543
前年度繰越金	1,622,068

計 21,371,574

## &lt;支出&gt;

会誌直接刊行費	6,347,124
会誌発送費	1,356,565
編集諸費	406,918
第 63 回大会費用	2,200,000
日本宗教学会賞賞金	0
学会賞諸費	113,450
選挙関係費	439,106
会合費	1,196,081
通信連絡費	871,100
事務用品費	251,588
印刷費	318,257
本部費	4,978,960
関係学会費	112,444
事務所費	1,501,122
ホームページ管理費	25,755
名簿作成費	772,643
次年度繰越金	480,461

計 21,371,574

## 2005 年度 日本宗教学会 予算案

## &lt;収入&gt;

会費	16,800,000
賛助会費	840,000
会誌売上金	30,000
第 64 回大会参加費	1,431,000
出版助成金	1,800,000
岸本・諸戸・石津・堀・増谷・ 柳川・玉城 基金利子	145
預金利子	50
前年度繰越金	480,461

計 21,381,656

## &lt;支出&gt;

会誌直接刊行費	6,500,000
会誌発送費	1,200,000
編集諸費	400,000
第 64 回大会費用	2,270,000
〔内訳：開催校大会運営費 本部大会運営費〕	〔2,200,000 70,000〕
日本宗教学会賞賞金	200,000
学会賞諸費	200,000
選挙関係費	400,000
会合費	1,150,000
通信連絡費	800,000
事務用品費	250,000
印刷費	350,000
本部費	5,000,000
関係学会費	100,000
事務所費	1,500,000
ホームページ管理・ データベース作成費	400,000
予備費	661,656

計 21,381,656